

令和7年度病虫害発生予察情報注意報第2号

令和7年9月30日
広島県農林水産局

9月第4半旬時点で、シロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺数が増加傾向にある。県内全ての地点でこの傾向が見られる。このうち、東広島市の地点では、9月第4半旬から第5半旬にかけて急激に誘殺数が増加した。現地でも、多数の被害が報告されている。

中国地方の向こう1か月の気温は高いと予想されており(気象庁・9月25日発表)、シロイチモジヨトウの増殖に好適であるため、被害が長期化することが懸念される。

ほ場内での発生が確認されたら、速やかに防除を行う。

【作物名】野菜類(ねぎ類、アブラナ科野菜、豆類、ばれいしょ、アスパラガス等)

花き類(キク、トルコギキョウ等)

【病虫害名】シロイチモジヨトウ

1 適用地域 県内全域

2 今後予想される発生量 多

3 根拠

- (1) 県内に設置しているシロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺数が、全ての地点で増加している。このうち2地点においては、9月第4半旬時点で平均誘殺数を大きく上回っている(図1)。また、三次市三和町と東広島市西条町では8～9月の累計誘殺数がそれぞれ平年の1.9倍、3.2倍となっている。
- (2) 東広島市安芸津町では、9月第5半旬の誘殺数が200頭を超えており、9月第4半旬と比較し、2倍程度の誘殺数となった。
- (3) 南部地域のねぎ産地において、基幹防除を実施しているものの、多発している事例が報告されている。
- (4) 気象庁による中国地方の1か月予報(9月25日発表)では、気温は高いと予想されており、本虫の増殖に好適である。

4 防除上の注意事項

- (1) 幼虫は広食性で、多くの野菜類(ねぎ、わけぎ、キャベツ、ブロッコリー、エンドウ、ばれいしょ、アスパラガス等)及び花き類(キク、トルコギキョウ等)を加害する(写真1)。
- (2) 成虫(写真2)は灰白色の毛におおわれた卵塊を産みつける(写真3)。ほ場を見回り、卵塊が多くみられる場合は、幼虫の発生に注意する。
- (3) ふ化直後の若齢幼虫は作物を集団で加害する。中齢や老齢(写真4)になると農薬の効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちにを行う。フェロモントラップ誘殺推移から、現在が若齢幼虫の発生時期と推定されることから、ほ場内で発生が確認されたら、ただちに防除を実施する。
- (4) 今後も長期に渡り、誘殺数の多い状況が続くと予測されるため、残効性の長い薬剤を使用する。
- (5) 全国的に薬剤抵抗性の発達事例が多く報告されているため、異なる作用機構の農薬をローテーション散布するように努める。また、薬剤散布後はほ場を確認し、防除効果の確認に努める。

- (6) 薬剤散布については、農薬使用基準(使用量、希釈倍数、使用時期、使用回数等)を遵守するとともに、周辺作物への飛散防止対策を徹底する。
- (7) 最新の農薬情報は、農林水産省ホームページ「農薬コーナー」の「農薬登録情報提供システム(<https://pesticide.maff.go.jp/>)」を参照する。
- (8) ほ場周辺の雑草は本虫の発生源となるため、除草を徹底する。
- (9) 今後の誘殺状況は広島県ホームページ(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/yosatsu-data.html>)を参照する。

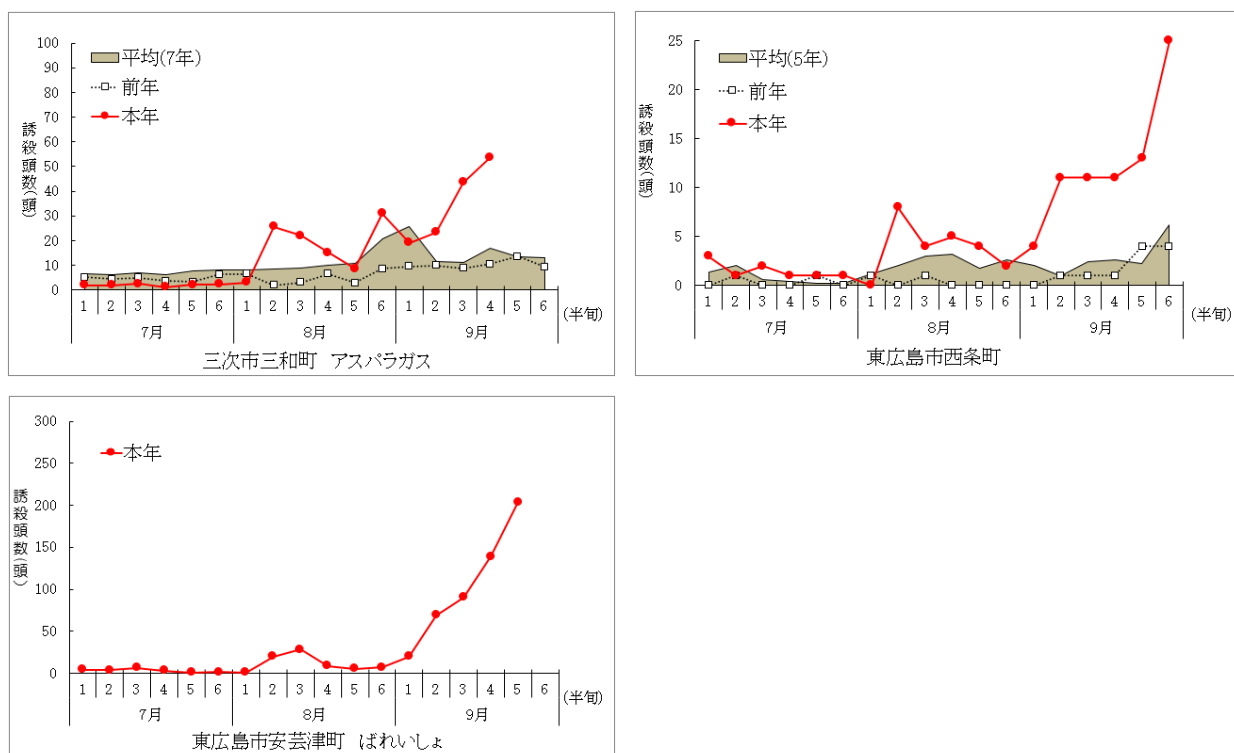


図1 シロイチモジヨトウのフェロモントラップ誘殺状況(7月～9月)



写真1 ねぎを食害するシロイチモジヨトウ幼虫



写真2 シロイチモジヨトウの成虫



写真3 卵塊



写真4 中齢・老齢幼虫

この情報は、広島県公式ホームページ「ひろしま病虫害情報」に掲載しています。

掲載アドレス (<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)



【お問い合わせ先】

- 農業技術課 (082-513-3559)
- 西部農業技術指導所 (082-420-9662)
- 県立総合技術研究所農業技術センター (082-429-0522 (代表))